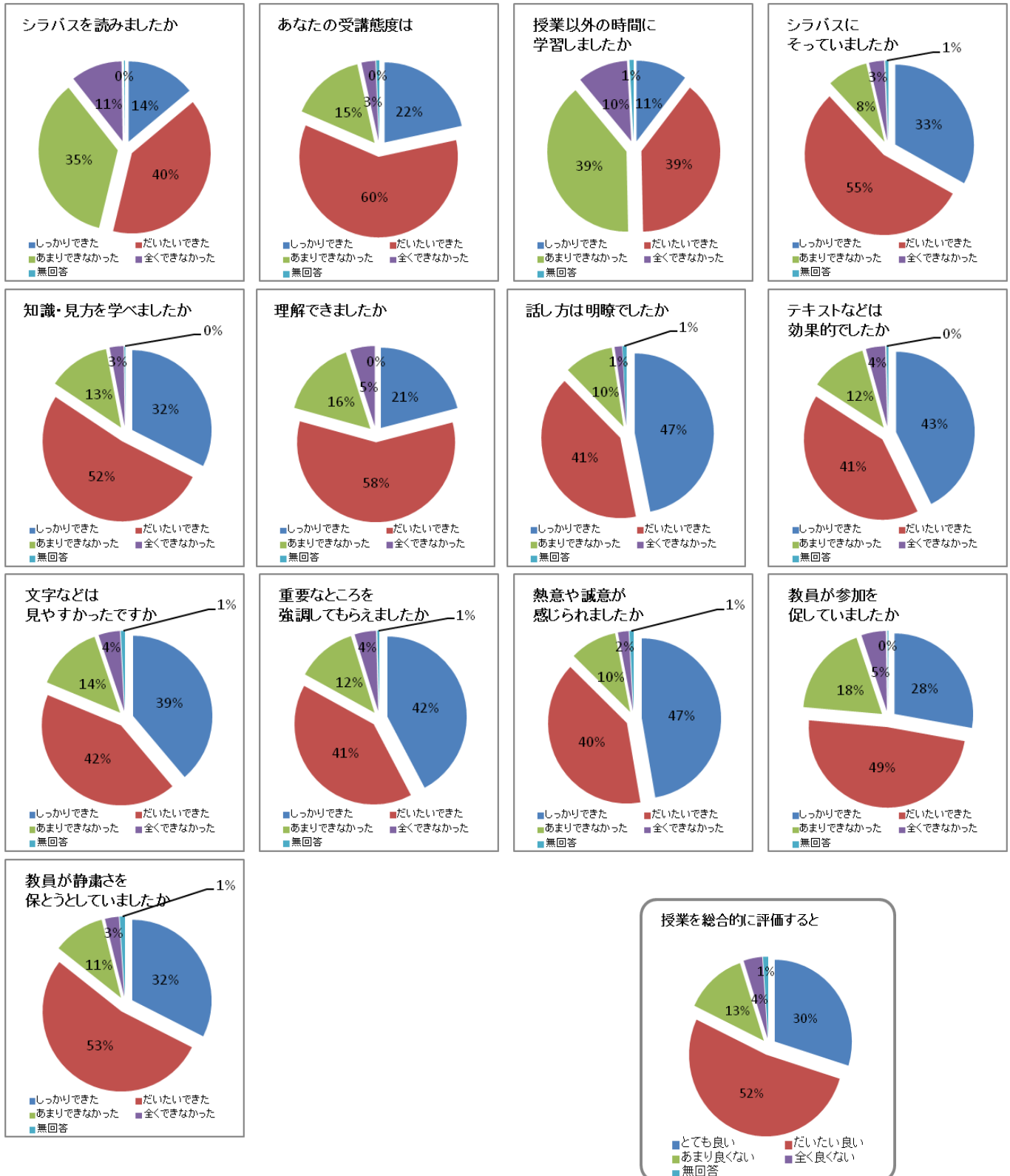


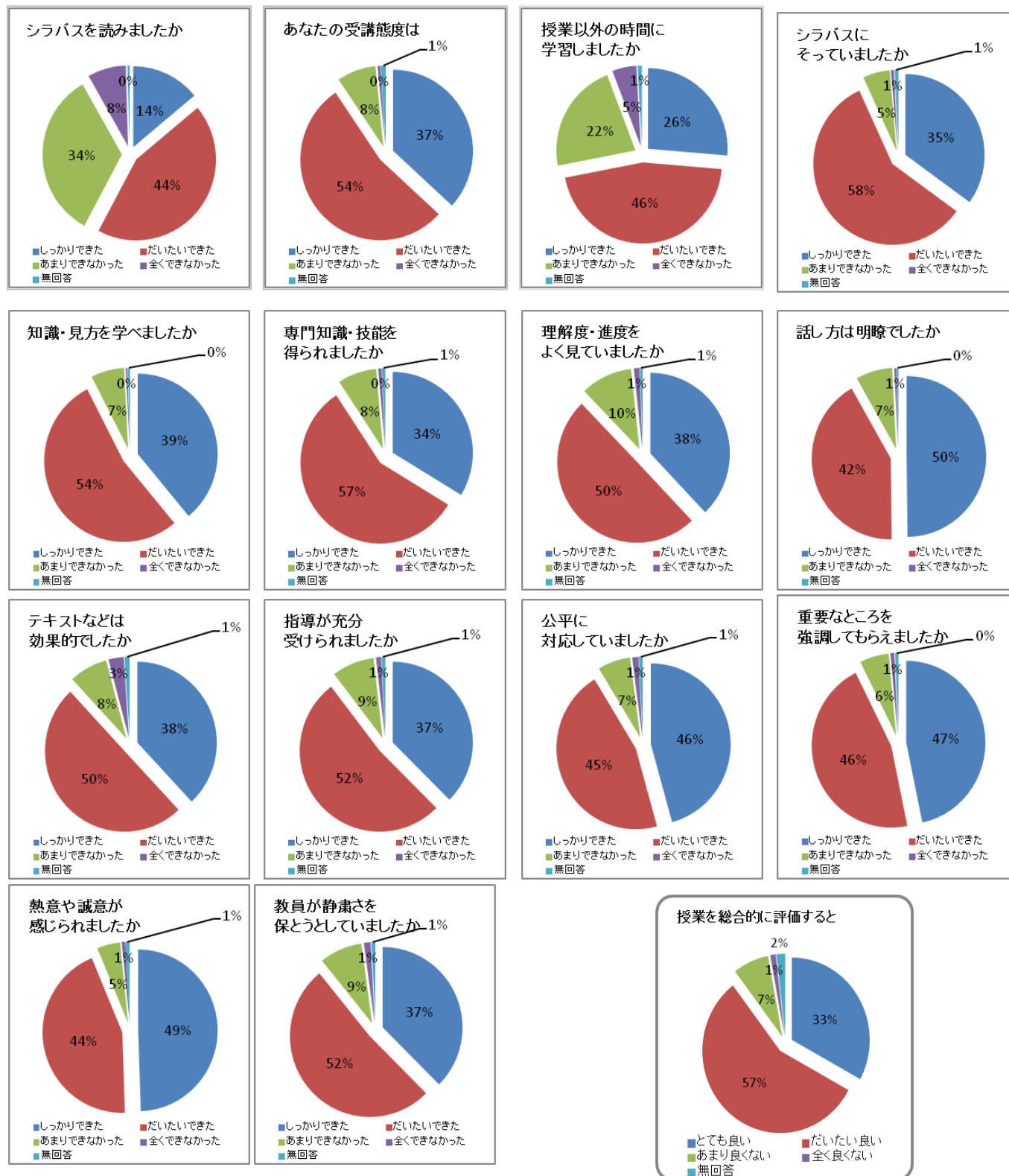
学生のみなさんの前期授業への評価 …

23 年度前期に全学科 58 科目で、学生による授業評価を実施しました。その結果のまとめが次の図です。

□ 講義系授業の結果



□ 実技系授業の結果



講義系・実技系とも最初の3つは学生のみなさんが授業に取り組むようすへの自己評価です。そして、全体の結果から次のことがわかります。

◇積極的な姿勢で授業にのぞむ学生は、講義系で82%・実技系で91%となっており、昨年度以上に意欲的に取り組もうという学生が増加しています。その一方で残念なことに、授業内容や到達目標、評価方法などを提示しているシラバスについては、講義系54%・実技系58%の学生しか読んでいません。

また授業外での学習については、講義系で50%・実技系では72%の学生が取り組んでおり、こちらも昨年度以上に増加しています。しかし授業形態による違いで20%以上の大きな差が見られることも事実です。

シラバスは、学生のみなさんの学習成果をより高めるためのものですから、授業の前にしっかり確認し、

到達目標や必要な準備物などを確認することが重要です。到達目標や毎回の授業内容を確認することで、学びの質がより高められますから、必ず事前にシラバスを読むことを習慣化していきましょう。

◇教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「熱意や誠意」について、講義系で 84～88%が、実技系でも「話し方」「テキストの効果的使用」「熱意や誠意」で 88～93%が肯定的な評価をしています。また、講義系の「文字の見やすさ」「重要点の強調」では 80%以上が、実技系の「十分な指導」「公平な対応」「重要点の強調」ではおよそ 90%が肯定的評価であり、本学教員の日々の授業に対する努力が学生のみなさんに評価されています。

◇この結果、学習の成果に関する評価では、講義系の「知識見方を学べた」「理解できた」がおよそ 80%、実技系の「知識見方を学べた」「専門知識・技能を得られた」が 90%以上と、講義、実技ともに高い肯定的評価を得ています。

◇こうしたこともあって、総合的な評価では講義系 82%・実技系 90%が肯定的評価を示しており、本学の多くの授業が学生から一定の評価を得ていることが伺えます。しかし前年度後期の総合的な評価は、講義系 90%・実技系 95%でしたので、評価を受けた授業科目に違いがあるとはいえ、課題として考えていく必要があります。

◇またその他の課題としては、肯定的評価のうち「だいたい良い」と答えている学生のみなさんを「とても良い」に、否定的評価の「全くよくない」、「あまりよくない」という評価を少しでも高めていくために、さらなる努力が求められるでしょう。そのために、一人ひとりの教員が視野を広げながら、長期的な展望を持って各自の授業の資的向上に向けて、日々研鑽を積んでいくことが求められていると思います。

教員から学生のみなさんへ

23 年度前期

前期の評価に対する専任の先生方(非常勤の先生をのぞく)から学生のみなさんへの回答をまとめました。

(敬称略)

【幼児教育科】

□ 図画工作 I

① 授業評価へのコメント

図画工作は保育者を目指す学生にとって基礎科目として位置づけられ、幼児教育科の卒業必修科目である。平成 22 年に改定があり、その授業内容が単なる造形の基礎技術を修得するだけでなく、子どもにとって造形が人間形成に重要な役割を果たすものとして保育者としての資質向上であるものと位置付けられている。従って、このことを授業の中で折につけ学生に伝えている。

また、保育者として子どもにとって造形が「あそび」であることも強調し、学生自身が楽しめる内容であることに留意して授業計画を立てている。

そのせいか例年以上に学生の授業に臨む態度には真摯なものを感じられる。学生の自己の取組に対する評価も比較的良好であり、概ね満足な結果といえる。

② 平成 23 年度の授業に対する目標

毎時間の折り紙や盛り沢山の内容に結構タイトな時間になる授業ではあるが、学生の造形に対する興味・関心を高めるための教材の開発と共に学生自身が学習成果を確認するためにポートフォリオを積極的に取り入れたいと考えている。

③ 学生への要望

この授業が何のための学習かを認識し、将来の保育者としてのモチベーションを持続し、学習意欲をもって授業に臨んでほしい。

□ 音楽理論

① 授業評価へのコメント

今回の授業評価実施科目は、音楽専修クラスの学生が音楽療法士（二種）取得に向けて履修する科目であり、一年次で学んだ「音楽Ⅰ・Ⅱ」の継続的な内容であったことと、資格取得という目的意識を持った学生が受講したことにより、全体的に積極的な履修態度であったことが伺われます。各自の理解度に合わせた個人指導を含め、演習も多く取り入れながら進めたことにより、教員側の熱意や誠意は伝わったようですが、ただシラバスについては授業開始時まで読んでいない学生が多くみられました。どの科目も同様ですが、予習復習、評価内容のことも含めしっかり明示してありますので、受講前に必ず熟読するよう心掛けてください。

②平成 23 年度の授業に対する目標

「音楽理論」は音楽を学ぶ上で基礎となる学問であり、より専門性が求められます。自由記述にもありましたが幼児教育科の学生にとっては大変難しい内容であるため、より分かりやすく具体性をもたせた授業に心掛けていきたいと思っています。また「もっと作曲や編曲法が学びたかった…」「コード進行法をしっかりと覚えたい…」等、現場で柔軟に対応できる知識や技能を身につけたいという意欲的な感想が多く見られましたので、今後さらに個人指導も多く取り入れ「音が苦」ではなく「音が楽しい」授業内容にしていきたいと考えています。

③学生への要望

保育での音楽力を身につけていくためには、基礎力となるピアノ実技は必須となりますが、それを支える「音楽理論」は確実に理解力を深めていかなければ応用力が育まれません。「継続は力なり」という言葉どおり、毎日欠かさない予習、復習がとても大切です。子どもたちは音楽が大好きであり、保育現場での活用範囲はとても広いと、さまざまなジャンルの音楽に対応出来る保育者になってください。

□ 保育原理

① 授業評価へのコメント

教員に対する評価は、全体的に高いポイントとなっている。これは、各項目自体の評価に加え、授業自体の満足度が高くなっているとも考えられる。講義系だからと云え、一方向的なレクチャーに終始する学習スタイルでは満足度は高まらないと予測できる。学生が主体的に、学び合う仕掛けを授業の様々な場面にちりばめることがこれからの講義系には求められる。そうした意図を反映させた授業構想が、満足度を今回高めたものと考えられる。

学生自己の取り組みに対する評価は、授業外学習のポイントが他に比べてかなり低くなっている。これは

単にアサインメントの強制などというものでは解決できない学びの質への問いかけと受けとめるべきではないか。授業時間内で学んだ内容と関連する項目や、さらに深化させたい事項について、主体的に解決していく姿をいかに授業で涵養し、授業外時間につなげていくかが今後の課題といえる

②平成 23 年度の授業に対する目標

まず第一に、時代の流行と不易との関係である。保育は特に制度面でドラスティックな変化を遂げようとしている。その流れを適切にとらえながらも、いかに時代が変わっても変わらない本質的な意味とのかねあいをどう調整していくかがこれからの課題といえる。

第二に、学びに対する面白さである。保育の資質能力は与えられるものではなく、自らが育てていくものととらえ、主体的に学びが展開できる仕掛けを授業の中に用意することが求められる。

③学生への要望

ボランティアや実習など、自身が経験したことをもとに、そこから課題や改善点を見だし、それを解決するための一つに授業があることを認識して欲しい。そして、自身の問題として学習に取り組む姿勢を期待する。

□ 幼児の運動と遊び

① 授業評価へのコメント

授業評価を受けて最初に感じたことは、学生たちが一所懸命に授業に取り組み参加してくれている姿に嬉しく思いました。前期の授業では、ノートを作成し動作や環境設定等を絵にして残すという授業を進めたのですが、メモを取る時間配分が短かった部分もあり、実技系授業での「動と静のバランス」が今後の課題となりそうです。自由記述では「楽しい」や「良かった」というコメントがあり、この授業が少しでも学生の心に響きそれを今後どこかで活かしてくれればと思います。これからも幼児の運動と遊びを楽しく学び、自分らしさを発揮してくれるように元気に指導していきたいと思います。貴重な意見をありがとうございました。

② 平成 23 年度の授業に対する目標

体を動かす楽しさを十分に感じてもらえるような授業を展開し、心から「楽しい」と思える運動遊びを学ぶことができる授業を目指したいと思います。

③ 学生への要望

「苦手」を「普通」に、「面倒くさい」を「やりたい・やってみたい」に、そして「楽しい」を感じることができるように少し考え方を変換してみてください。自身が楽しくできれば、必ず相手に伝わると思います！



【デザイン美術科】

□ デザイン基礎

① 授業評価へのコメント

当科目の評価値は、総ての項目に渡って学科評価平均値とほぼ一致する。総合評価 3.6 の意図は、学生から「だいたいの満足」を得たものと解釈したい。その中で、授業をするにあたり最も重視している点のひとつである「公平」になお 0.3 の余地があるということは、客観的な評価判断と言うよりは学生の、「もっと私を見て欲しい」望みへの表れと理解する。ひとり一人と、いっそう精力的に向き合わなければならなかった。指導方法と実行形態は修正と加筆を積み重ねて現在に至る。毎年学生から評価、感想を戴きながら、必ずしも向上しない評価値の現状を厳しく捉える時、自身の教員としての限界を感じないでもない。経験知の効力は指導の一部分を占めるに過ぎないと思っている。常に新しい学生に対し、歳月とともに惰性を育ててきたとしたら、自ずから身を引くべき職業だと内省する。

デザイン基礎過程の履修時間は更にあるに越したことはない。もっと与えたい思いは強くある。望まれれば個別に、いくらでも別途課題と指導を提供する。

③ 学生への要望

今回の授業では複数の課題で、複数の学生が自発的に作品を再提出した。本来当然のこととは言え、大変に嬉しい。かつては作品の質に応じ再制作、再提出を求め、学生もこれに応えるのが常だった。年を追うに従い諸理由から、授業時間内での制作を認めざるを得ない状態となっているが、この度の受講生に対しては集中力、持続力、探究心とも一定の評価を与えることができる。この様な制作態度を誰しも保持し、体質化して欲しい。造形表現を超えた自身に大切な何か、が育つ筈だ。

□ DTP基礎

① 授業評価へのコメント

今期の本科目受講生数が 20 名であり、コンピュータ関連の演習科目における適正人数であったことは、受講生にとっても指導者にとっても幸いであった。それにより、授業が組み立てやすく、個別指導に充てる時間配分の調整もうまくいき、その結果が授業評価にも表れたと思っている。

受講生自身の授業への取組に対する評価も高かったことは、担当者にとって嬉しいことである。毎時の授業課題のねらいや今後の展開を学生に意識させるように努めたことが、学生の高い取組へと繋がったのではないかと感じている。授業のねらいや到達目標の明確化、個々の学生への適切なアドバイスなどの重要性を強く感じた。

一方、真面目な取組ではあったが、一定の時間内で課題を仕上げるときの作品の完成度に対する学生の意識付けが弱かったのではないかと反省している。期間内の作品完成と、質の高い作品制作とのバランスを自らコントロールできる力を育てる必要を感じた。

③ 学生への要望

課題制作にあたっては、こだわりと執着心を持って貪欲に取り組んでほしい。また、技術的な内容については、反復練習により個々のスキルを上げる努力を惜しまないでほしいと願っている。

□ アニメーション入門

① 授業評価へのコメント

今年度、アニメーション入門を担当して感じたことは、多くの学生が、積極的に課題と向き合っていたことです。アニメーション課題は、制作に時間がかかるため、初めに計画をしっかりと立てないと完成はしません。制作時間を考慮し、コンセプトや作品の長さを定めます。

今年の学生は自ら授業外でも制作しないと間に合わない作品にチャレンジしていました。個別対応時に何度も「作品の長さを短くしないと、授業内では間に合わないよ」と伝えましたが、自ら授業外の時間も計画に入れ、作品制作に励んでいました。アンケートの結果にも、時間外の項目にそれは読みとることが出来ました。

しかし、学ぶや知識や技能または、態度の項目においてはあまり意識付けに成功したとは言い難い結果です。今後は、学生が自ら行おうとしていることにどれだけの意味があるのかを一緒になって言葉に変えていく必要性を感じました。

② 次年度に向けた目標

授業のねらいをしっかりと伝えた上で、学生の行動から動機づけ支援を行う。

③ 学生への要望

今できることを精一杯やって、一つ一つの作品を完成させる意識が大切です。そして出た結果の中で問題点を見つけ、次につながる仕事を見つけることが大切です。常に挑戦者の気持ちをもって、さらにポジティブシンキングにより、自らの行動の中から答えを見出してください。次につながる仕事が多い学生は、成長できる可能性が大きいのです。



【音楽総合科】

□ ボランティア実践

① 授業評価へのコメント

学生自身がシラバスを見た、教員がシラバスに対応した授業内容であったという項目の得点が低かった。この授業は授業内で高齢者施設、障害者施設に出向き音楽活動を行うことを主な軸として、そのための準備、練習、施設での実習後は反省、評価のサイクルを繰り返すものである。日程が変更になったり、実習の分担が予定と変更になったりと、予定外の活動があったことも評価が低かった原因ではないかと考える。シラバスは学生に対して、こういった授業を行いますという約束となるものなので、あまり逸脱しないように今後シラバス内容と授業内容の整合性に気をつけてゆきたい。

② 次年度に向けた目標

上記にも記載したようにシラバス内容と実際の内容に乖離がないようにつとめることと、資料の活用、公平という得点が低かったため次年度は気をつけてゆきたい。公平に関しては、活動を実際に行う中で学生間の実力の違いが明らかになるために、到達目標に達しない学生には意識的にはたらきかけていたが、その一

方で、すでにできている学生に対してのフォローが不十分であったかと考えている。様々なレベルの学生にも公平にレベルに応じた課題を与え、評価してゆくことが今後の課題である。

③ 学生への要望

福祉施設での音楽活動を学生が自ら考えて動くことができるようにしたいという目標がある授業のため、教員が手取り足とり指導する形ではなかった。しかし、それが不公平と感じられていたのなら教員の説明が不十分であったと考えている。自主的、積極的に課題を見つけて動くことを要望したい。

□ 吹奏楽指導法

① 授業評価へのコメント

学生の「自己の取り組みに対する評価」では、シラバスを見ていないという評価が、特筆して低かった。シラバスの書き方に工夫が必要に感じる。また教員から学生に対して観るように促す同時にシラバスの重要性を伝える必要がある。

「教員の取り組みに対する評価」では全体に評価が低く学生が学びたい内容の授業作りができる様工夫したい。

② 次年度に向けた目標

授業内容をより計画的に行い、シラバスの内容を充実させ学生が自主的に予習を行えるような環境作りを行いたい。「熱意や誠意」「雰囲気」などの項目がやや低かったので、学びやすい雰囲気作りや学生に対し丁寧かつ積極的にコミュニケーションを取っていききたい。

③ 学生への要望

受け身ではなく積極的に授業に参加してもらいたい。興味のあることはどんどん質問してください。興味が深まることで、授業の内容もより充実したものになると思います。



【歯科衛生科】

□ 保存修復学

① 授業評価へのコメント

覚えやすいように穴埋め形式のプリントを要望する記述があった。これに対し、授業は穴埋めの部分だけを捉え、試験がクリアできれば良いとするものではない。臨床の場において、毅然とした態度で活躍できるよう学ぶものである。それを忘れず学んで頂きたい。

② 次年度に向けた目標

学生参加の討論形式の授業を目標とする。しかし、近年は困難を来たし、今後の課題としたい。

③ 学生への要望

「プリントのここを見て下さい」の一言を加えて欲しいとの要望があった。プリントの多くは、スクリーンに写し出されるスライドから重要な部分を抜粋したもので構成される。配布されたら良く目を通すことを望む。また、次回の講義へと繋がるため、プリントも含めた復習を望む。

□ 診療補助総論

① 授業評価へのコメント

昨年に引き続き講義系科目での授業評価を行った。各アンケート項目の評価は、概ね高い評価を得ることができた。昨年、毎回授業開始時に行った、前の回の授業ポイントをスライドにて復習したことを、今年度はポイントチェックと称してポイントを絞った2～3問の小テストにして行ってみた。アンケート結果にもあるように、授業以外での学習をおこなっていなかった学生もいたようなので、各回のポイントチェックの成績は、かなり個人差があったが、あまりよくなかった。しかし、期末試験の成績はここ数年の中ではかなり高く、自由記述の中にもあったように、このポイントチェックや分野まとめのテストなどを期末試験勉強に上手く活用して学習していたように思う。

② 次年度に向けた目標

今年度の授業は、学生の受講態度が良かったこともあり、スムーズに授業をすすめることができた。が、各回授業の最後のほうは駆け足になってしまい、まとめをすることができていなかったのも、授業の最初のねらいや到達目標の提示、授業の最後はまとめができるようにしていきたい。

③ 学生への要望

前期は入学して間もないこともあり、スライドやプリントなど提供しましたが、それら与えられたものをそのままにせず、自分なりにまとめることも理解を深めることとなります。自主的に学習する習慣をつけましょう。

□ 歯周病予防技術法Ⅲ

① 授業評価へのコメント

近年、口腔機能回復支援法を評価対象としていたが、今回、初めて歯周病予防技術法Ⅲを対象とした。この科目は、1年で行った歯石除去の基礎訓練を経て歯肉縁下歯石除去を目的とした基礎および相互実習の形で展開する。施術部位は変わるが、施術内容は歯石除去と変化に乏しいため、学生にとって楽しい授業ではないと予想していた。結果、全学、学科と比較してどの項目も差は見られなかった。自由記述では、学生は前向きにとらえており、単調な基礎実習でも机間指導に対し多くの学生が「分かりやすかった」と「良かった」と書いている。昨年は、学生が少なくゼミのように行えたため問題はなかった。しかし、今年は多くの学生を対象としているため、「デモ」が見にくいとあった。また、二人の教員で指導しているが、「意見を統一してほしい」との要望が見られた。事前に打ち合わせ、デモの統一は図っているが、改善に努めたいと思う。今までの課題「話し方」の評価で、「聞き取りやすかった」とあった。改善がみられたと思われる。

② 次年度に向けた目標

- ・今後も「話し方」について意識をすることを忘れないようにする。
- ・デモの方法を工夫していく。
- ・実習科目は、複数教員で担当するため、同じことでも表現の違いで学生が戸惑うと思われる。気をつけていきたい。

③学生への要望

具体的に何の意見が違っているのか、できるだけ例をあげて書いてほしい。

□ 歯周病予防技術法 I

① 授業評価に対するコメント

全体的には平均より上の評価となり安心はしたが、学生の自己の取組に対する項目の「授業外」では全学平均を下回ったことより、対策が必要と感じる。自由記述には「良かったところ」に多くの学生が記入しており、2人の担当教員が学生個々の技術力向上のためにきめ細かく対応した部分を評価してくれており、教員として励みに感じた。逆に「改善したほうが良いところ」での内容については、実習を行う中で休憩時間がずれ込むことや、デモンストレーションの見せ方に不公平感が生じないような工夫を考慮する必要がある。

② 次年度に向けた目標

入学してすぐの実習科目ということで、早めに学生個々の能力を教員が把握し、技術力向上のための授業展開を実践したい。そのために、デモンストレーションを少人数対象の時間差で行うなど工夫が必要となる。また、学生個々に自主的に受講する姿勢を促すことも、この時期の授業として大切である。時間外の自主練習を積極的に行える働きかけを考えていきたい。

③ 学生に対する要望

積み重ねの練習により技術が身に付く科目なので、授業時間のみの練習ではなかなか合格に至らない。また、試験直前になって必死になっても技術の習得には間に合わないこともある。知識の習得についてもただ丸暗記ではなく、理解するように努力してほしい。そのためには、授業1回1回を大切に受講し、体調を整え欠席のないよう自己管理ができるようにしていただきたい。

□ 診療補助臨床応用 I

① 授業評価へのコメント

診療補助臨床応用 I では、臨床現場で必要な力を身につけることが目的である。開講時期は、3年生前期であり臨床実習も第Ⅱ期を迎えたところである。この実習では、「臨床実習ですぐに活用できること」を目的に授業を組み立てている。学生の自由記述には、「臨床で活かせる」「臨床で重要なことがより詳しく学べて良かった」などの感想があった。このことから、この授業で学んでほしいことが学生に伝わっていたと考える。全体と比較すると、学生の自己の取組に対する評価は高い結果であった。この授業に興味を持ち、積極的に取り組んでくれていたのだと感じている。

② 次年度に向けた目標

歯科衛生士の業務を、さまざまな視点から見ることでその必要性や重要性をより理解することができ、臨床における応用力を身につけることができる授業を企画する。臨床実習で、学生が力不足を感じる部分を補えるタイムリーな授業を取り入れていきたい。

③ 学生への要望

今までに習得した知識・技術が基本となる。失敗を恐れず、より良い方法を工夫しながら積極的に実習に取り組んでほしい。

□ 診療補助実習Ⅱ

① 授業評価に対するコメント

教員の取り組みについては、全学科平均、学科平均を下回る評価となった。学生の自由記述では二分しており「丁寧に分かりやすい」「非常に身についた物が多い」「プリントや実例を上げて分かりやすい」とコメントもあれば、「どのようなことをやるのか分からない」「進むのが速く、内容が理解できない」「時間配分に余裕がない」というコメントであった。学生によって理解には個人差があり、この点からも進め方や時間配分を見直す必要があると反省している。

② 次年度に向けた目標

この科目は、専門科目の講義ではすでに終わっている教科である。その為、ポイントを確認する程度の講義から実習を進めてきた。しかし、学生によっては十分に理解されていないこともあるため、プリントは事前に配布し、予習（講義の復習も兼ねて）しやすい物に変え、時間に余裕を持たせるようにすることで、学生には分かりやすい授業になるよう改善することを目標にしていきたい。

③ 学生に対する要望

自己の取り組みのアンケート結果から「シラバス」「授業外」において評価が低いこと、今回の復習テストの結果からも、復習をしている学生が少ないことが分かった。専門用語、使用する器具、器材も多い授業であるため、再度プリントを見直してほしい。今後、臨床実習先での臨床実習日誌を書くうえでも非常に役立つと思います。



【総合教育センター】

□ 発達心理学

① 授業評価へのコメント

学生自身の学ぶ意欲や理解に対する評価から、学生が興味を持って授業に取り組み、内容についての理解も深めたことが伺えた。教員の取組については、資料の活用、板書、熱意・誠意が高い評価であり、授業内容の理解のために教材を工夫し準備をしたことがこの結果につながった。評価の中で一番低かった項目は「授業を受ける雰囲気づくり」であり、これは学生の私語への対応の悪さによるものだと思う。自由記述にもこのことに触れたものがあり、授業を進める教員として、全ての学生が良い環境で授業を受けることができるよう、努力する必要があると感じた。

② 平成 23 年度の授業に対する目標

従来から取り入れてきたグループ学習などを工夫し、全ての学生が授業進行の主体となって取り組めるような授業を目指す。教員の話の聞いているだけの受け身の授業ではなく、自分が課題をこなすことで授業が進んでいくので積極的に取り組む意識を促し、私語などの授業環境を悪化させる言動を減少させることも狙いとする。

③ 学生への要望

授業を「聞く」のではなく、「参加する」という意識で臨んでください。心理学関係の科目は、誰にとっても実感できる内容がたくさんあります。自分自身の過去の経験や現在の感覚・感情を総動員しながら、一緒に授業を進めていきましょう。

□ 保育内容の指導法(言葉)

① 授業評価へのコメント

授業に関係のある内容を広く取り扱うことに重点を置いたが故に、全ての事項に対して重要度が均等になってしまった。また、授業での学びに焦点を当てていたため、授業外での学びを促すことができなかった。しかし、シラバスや資料など提示内容に関しては共に一定の評価を得ることができた。

② 平成 23 年度の授業に対する目標

資料については有用に作成できているという評価を受けていることから、その資料をさらに整理し、要点をまとめることで、特にどこを理解し、学びとってほしいかが分かりやすくなるように改善していきたい。それに伴い、1 コマごとに到達目標を提示し、広く取り扱いながらも、焦点を絞って学べるように工夫したい。そして、特に学んだ欲しいことは、明示するようにするが、授業外での学びにも繋げられるように、その時期に応じた流行のものを取り上げるなど、身近な生活の中から学びの習慣が付けられるように援助していきたい。また、パワーポイントを使用しながら、必要に応じてホワイトボードも適宜用いたい。

以上の点を改善することにより、授業内容を充実させるとともに、保育の世界で大切にされている生活からの学びを体感するために、授業外での学びも誘発できるように取り組んでいきたい。

③ 学生への要望

演習の色合いが強い授業なので、自ら学んでいくとともに、主体的に発言し、学生同士が意欲的に議論し合うことを望みます。そして、その授業や議論で話題になったことが授業外や家庭での生活などにも波及することを望みます。

今後も 教職員は 学生のみなさんとともに よりよい授業づくりに 努力していきます

23 年度前期に授業評価を受けた専任の教員が、みなさんの評価に対して答えるとともに、各教員なりの授業改善に向けた目標を設定しました。よりよい授業は教員だけで作りあげられるものではないので、いっしょに授業をつくっていく学生のみなさんに対する要望もあげました。

大垣女子短期大学に学ぶ学生のみなさんが確実に学習成果をあげられるよう、直接授業を担当する教員とそれらを後方で幅広く支えている事務職員がいっしょになって、よりよい授業づくりをめざして努力していきたいと考えています。

しかし、授業は教職員が努力するだけものではありませんし、教職員が努力するだけの授業では学生のみなさんにとっても本当の意味での学びのおもしろさを体験することは出来ません。教職員と学生がともに努力し、双方で授業をつくり上げていくことが、学ぶことが「おもしろい」と感じられる授業につながっているのだと思います。そのために、毎回の報告で申し上げるのですが、事前にシラバスを読むということは学生と教職員の双方で授業をつくっていくということに必要不可欠と言えます。

学びの質を高めるために、時には厳しく、また困難な課題を提示することもあるかもしれませんが、その困難を乗り越えるために努力することが学生にとっての義務であることを理解してください。そして、教職員も学生のみなさんに対するサポートをしっかりと取り組んで行きたいと考えています。

高等教育機関である短期大学にふさわしい知識や技能を学生のみなさんに確実に伝え、それらを身につけながらみなさんがよりよく成長できるように、これからも授業づくりに努力していきたいと考えています。

